

2020年11月22日 主日礼拝

司式：相浦長老

奏楽：中村

*以下、太文字の言葉はみんなで声を合わせます。

《神のみ前に近づく》

前奏
序詞 (ヴォータム)

わたしたちの助けは、天と地を造られた神からきます。
アーメン。

あいさつ

主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりが、あなたがたとともにありますように。

そして、また、あなたとともにありますように。
アーメン。

讃美歌 54-1節 (聖霊みちびく神のことばは)

罪の告白 (声を張り上げないで共に祈ります)

父なる神さま、あなたに支えられ守られていると信じながら、先が見えないと嘆いてしまう私たちの弱さと愚かさを憐れんでください。困難の中にあっても「ハレルヤ」と歌える力と信仰とを、この礼拝でこそ与えてください。どうか、すべての罪と呪縛(じゅばく)から解き放ってください。

主よ、私たちが属している教団と教会、その信徒と教師たちを覚えて祈ります。特にその生涯を懸けて伝道のために働かれた隠退教師とご家族を支え、守ってください。あなたにある平安と祝福で満たしていただきますように。

「味わい、見よ、主の恵み深さを。

いかに幸いなことか、

御(み)もとに身を寄せる人は。

主の聖なる人々よ、主を畏(おそ)れ敬え。

主を畏れる人には何も欠けることがない。」

(詩編 34:9-10)

*しばらく黙禱の時をもちます

主よ、私たちの心と体をとらえ、生き返らせ、喜びで満たしてください。御名によって祈ります。アーメン。

讃美歌 32 (キリエ) = 座ったままで

赦しの確認と保証 (司式者のみ)

主の赦しと慰めの言葉をお聞きください。

*司式者がローマ書5章6~9節を朗読します。

アーメン。

《神のみ言葉の宣教》

聖書

創世記 3章15節 (旧p4)

これは神の言葉です。

神に感謝します。

ヨハネの黙示録 12章1~10節 (新p465~466)

これはキリストの福音です

主なるキリストを賛美します。

み言葉を求める祈り (司式者)

讃美歌 196-1, 2節 (主のうちにこそ)

説教

『黙示録⑨ — 神の子の登場』

祝福の祈り

武田真治 牧師

《神への応答》

讃美歌 443-1~3節 (冠も天の座も)

献金

奉仕者：上松 大竹

とりなしの祈り (司式者)

主の祈り 93-5 (ともに祈りましょう)

報告

讃美歌 88 (心に愛を)

祝祷

武田真治 牧師

後奏

報告と退場

受付：金刺 坂田 礼拝：金刺長老

お茶の会 当分の間休会です。

＜先週の説教から＞

『黙示録⑩—七番目のラッパを吹く時』

詩編 132:17~18 ヨハネ黙示録 11:14~19

昔から、この黙示録に対しては『怖い』とか『暗い』というイメージがあるのですが、希望に満ちた箇所もたくさんあります。少なくともこの黙示録を著したヨハネ自身は、未来を暗いと思っていませんでした。むしろ自分たちの未来は明るいと思っていたのです。その証拠は、黙示録にはたくさんの讃美歌・神様やイエス様を讃える歌や言葉が書かれている点です。今日の箇所もまさに感謝と讃美の歌です。

天使が七番目の最後のラッパを吹いた時、天に大声が響き、「この世の国は、我らの主と、そのメシアのものとなった。主は世々限りなく統治される」と。これは最後の終末の時、メシア=イエス様がこの世界に再臨された瞬間を讃美している声です。この言葉が、ヘンデルが作曲した『メサイヤ』のハレルヤコーラスの歌詞として用いられているのです。キリストの再臨を思っ歌われているのですね。

更に、キリストが再臨される時には「死者の裁かれる時が来ました」と歌われています。すべてのこの世の歴史に決着を付けられて、すべての人間の生涯を判断される時が来ると。確かに、偉人の評価も時代によって変わります。昔は立派だと思われていた人が今ではそれ程でもなかったり。すべての歴史が終わってこそ正しい評価が下せるのでしょうか！

その時、神様の「御名を畏れる者には(どんな人にも)報い(=永遠の生命)」が与えられます。逆に「地を滅ぼす者どもを滅ぼされる」と。大事な点です！神様はこの世界を愛してくだっているが故に、この地を滅ぼす者達を赦されないのだと。ここに神様の判断基準が示されています。私たちが心したい。

本日の集會 礼拝前：・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後：・牧会/礼拝/教育/社会/伝道 各委員会
・聖歌隊練習